

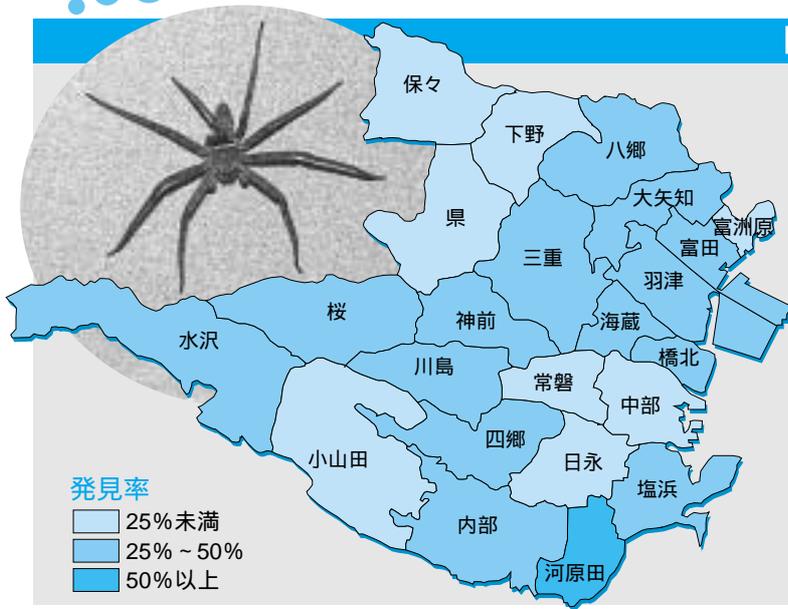
# 生きものたちの暮らし

特集 身近な自然調査結果  
見えてきました

私たちの周りにある自然の様子を今一度確かめてみよう。市民のみなさんのご協力で行った平成十二年度の「身近な自然調査」の結果がまとまりました。その一部をご紹介します。

## 市街地に居残る生きものたち

### 【アシダカグモ】



大型のクモで、気味悪い感じもありますが、ゴキブリの天敵の役割を果たしてくれています。平均発見率は二六%と低かったものの、郊外の地区では高く、比較的どこの家にも見られ人家に依存している生きものです。

### 【イタチ】



行動が素早く見つけにくい生きものなので、平均発見率は低かったものの、ほとんどの地区で発見されました。えさとなる小鳥や小動物力干、昆虫などが得やすい環境のある郊外の地区で多く発見されています。

### 【ヘビ類】



今回の調査では全地区で発見されており、特に道端庭、川原で多く見つかっています。えさとなる生きものが多く、隠れ場所も多いためと思われま。

参加者募集!

## あなたも自然調査をしませんか?

対象 市民のみなさん  
調査内容 第3回は10種類の動植物について調査します  
調査期間 9月1日～10月31日  
申し込み方法 郵便番号、住所、名前、電話番号をはがきかファクスで、〒510-0093 四日市市本町9番8号 本町プラザ4階 四日市市環境学習センター内「身近な自然調査」推進研究会(FAX 54-8431)へ

# イタチやヘビもほとんどの地区で発見

調査は、昨年七月と八月の二カ月間にわたり、十種類の動物について行いました。

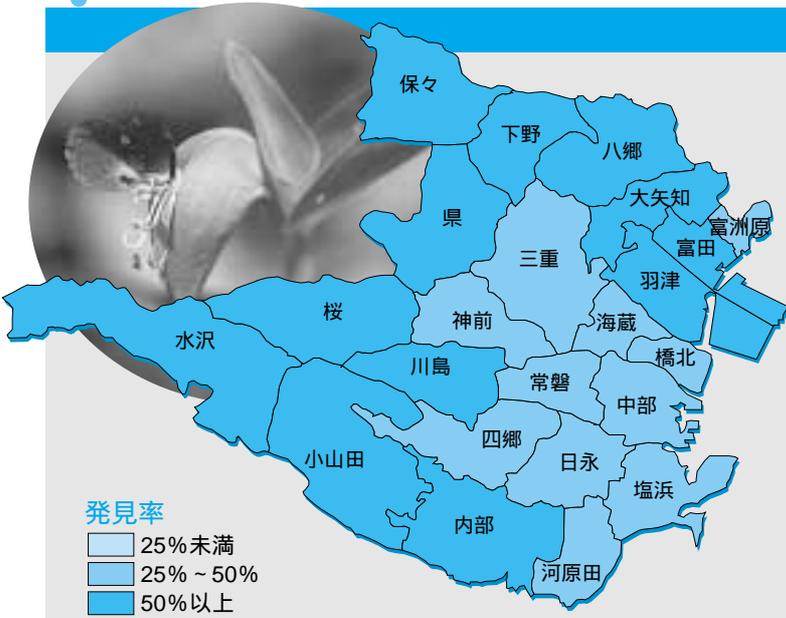
対象は、動物では、イタチ、カワウ、ヘビ類、アオスジアゲハ、ツマグロヒョウモン、クマゼミ、カマキリ類、アシダカゲモの八種類、植物では、ツククサ、スベリヒユの二種類です。

調査には、子どもから大人まで、昨年を上回る八六三人も市民のみなさんに協力していただきました。

## 市街地に広く見られる生きもの

### 【ツククサ】

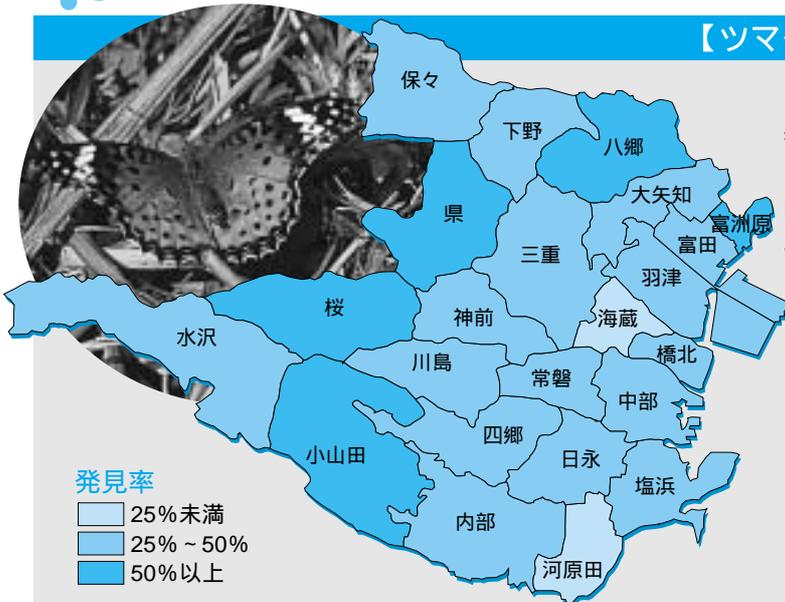
道端、畑、庭などに見られ、発見数も多く、平均発見率は五三%とカマキリに次いで一番目に高い数値でした。市民の目に止まる、今も身近なかわいい花として親しまれていることが分かりました。



## 市街地で増えている生きもの

### 【ツマグロヒョウモン】

アオスジアゲハと同じくらいの発見率で、全区で多く見つかっています。庭、畑、公園などのミレ類に産卵し、一年に何回も成虫になるチョウです。幼虫のえさとなるパンジーが広く栽培されるようになったので、だんだん増えてきていると考えられます。



### わたしたちが調査しました

#### 親子一緒に自然を見つめるいい機会

田中芳子さん(小学一年) 日永一丁目

宏樹君(小学一年)

僕はカブト虫を育てたり、自然と一緒に遊ぶのが大好き。家の庭でへびを見たこともあるし、クマゼミもやかましいくらい鳴くよ(宏樹君)。子どもが庭やその周りで見えたものを調べました。アオスジアゲハなど、調査対象の十種類のうち半数以上を発見できました。



これからも自然と触れ合い、自然を大切にする子になつてほしいと思います(芳子さん)。

#### 興味が出て調査対象以外の虫もいろいろ発見

加藤友太郎君(小学四年) 川北一丁目  
和基君(小学四年)

お父さんがちゃんねるよつかい「で調査のことを知り応募してくれました。兄弟二人で

学校の行き帰りの道や遊び場所の周りで見たことのあるものや新しく発見したものを調査票に

書きました。自然を見るのが楽しくなって、調査対象以外でもいろいろな虫や草を見つけました。

